

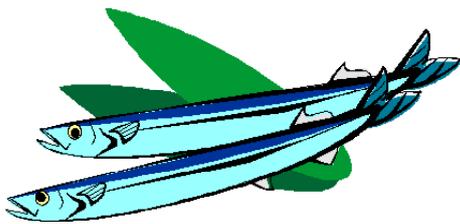
SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

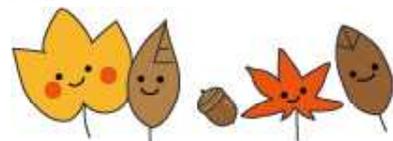


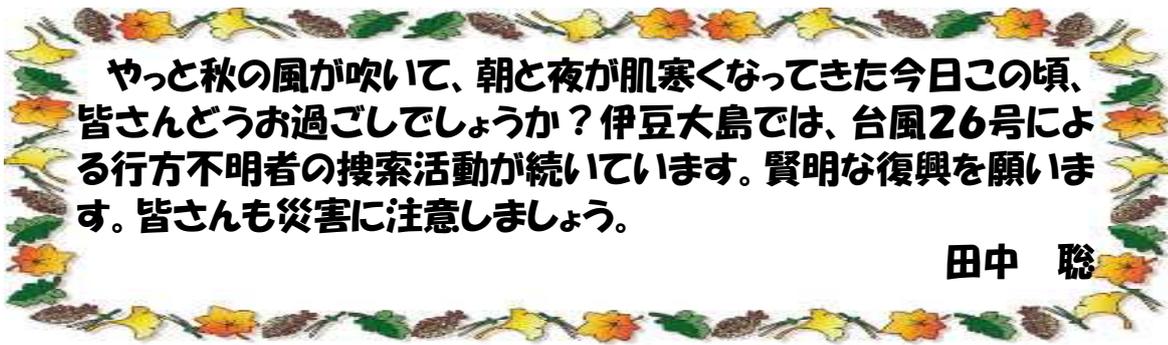
目次

巻頭文、虫めがね	2
虫めがね、活動報告	3
追悼文	4
追悼文	5
追悼文	6
追悼文、学習会	7
きょうされん大会報告	8
きょうされん大会報告	9
きょうされん大会報告、旅行感想	10
カレンダー告知、クラブ活動報告	11
寄付のお礼、スケジュール、 僕の生い立ち（太田連載）、あんパン物語（和栗連載）	12
バリアフリーよもやま話（岡本連載）、 クイズ	13
Dormitory Life（小野塚連載）	14
夕会便り、自主活動感想、 クイズ解答	15
編集後記	16



2013年
11月号





やっと秋の風が吹いて、朝と夜が肌寒くなってきた今日この頃、皆さんどうお過ごしでしょうか？伊豆大島では、台風26号による行方不明者の捜索活動が続いています。賢明な復興を願います。皆さんも災害に注意しましょう。

田中 聡

巻頭文

虫めがね～会ってみたい偉人～

相対性理論を研究し発表した、アンシュタインに私は会いたいし、出来ることなら助手になって、深く々宇宙の研究をしたいと思っています。



太田圭子



僕は物理学が大好きです。それほど最高度の数学を駆使しなくとも自然の本質に迫ることのできる「物理学者」に憧れます。そういったわけで、僕が一番会ってみたい偉人はアインシュタインです。物理学者の中では決して数学がずば抜けてできたわけではないアインシュタイン博士が何故、最高級の物理学者として評価されるのか、それは博士の自然に対するとてつもなく深い洞察、把握があったからではないでしょうか。50年先の物理学を先取りしていたという人もいます。

人間、空間の3次元、時間軸を入れた4次元までは、頭の中で把握できます。しかし、もう一本座標軸を増やした5次元時空間は、決してビジュアルには把握できません。実際、三つの直交する座標軸、x軸、y軸、z軸は、高校の数学でやるように、把握できます。しかし、それら三つの軸すべてに直交する軸を頭に描くことはできないでしょう。ただ、数学では様々な分野で、形式的に一般のn次元空間を考察します。しかし、物理学的に現実宇宙の記述としての4次元以上の空間、時空の5次元以上を考えることは困難です。最近、超弦理論とかで、10次元、11次元、あるいは26次元とかといった途方もない次元数をもった空間を考察しています。しかし、4次元時空を越えた次元、座標軸を人間はビジュアルには把握できない、という前提のもとでの理論展開です。ところで、1999年、ランドール、スンドラムの二人が、あくまで数学的な枠組みとして、5次元時空の物理学を提唱しました。

これは僕の妄想ですが、生身の人間では決して察知することのできない5本目の座標軸をビジュアルに把握できる能力がアインシュタイン博士に瞬間的にでも備わったことがあったのではないかと考えることがあります。博士がものすごく覚醒されてひらめく瞬間、あるいは極度な緊張状態にはまった瞬間、5次元時空を鮮明に頭に描くことができたのではないかと思うことがあります。これは、人間を越えた神の領域です。もう故人となってしまう、お会いすることは決してありませんし、また仮に生きておられたとしても僕ごときに会ってくれるわけではないのですが、僕の個人的興味から、その是非をアインシュタイン博士にお聞きしたいです。

ストーン・ゴッド

虫めがね 「会ってみたい偉人」

私が会ってみたい偉人は、勝海舟です。彼は、晩年を赤坂氷川町で暮らしました。ですから親近感がわくのです。彼は1860年、日米修好通商条約の 批准書（ひじゅんしょ）交換のためアメリカに使節が派遣されるとき、咸臨丸を指揮し、日本人初の太平洋横断航海に成功し、後に神戸に海軍操練所を開いて幕臣や坂本龍馬を教育しました。明治元年、戊辰戦争で東征軍の西郷隆盛・村田新八らと会見、江戸城の無血開城を決めました。坂本龍馬は確かに英雄です。でも彼（勝麟太郎）に感化されたから明治維新は成し遂げられたのではないのでしょうか、だからこそ僕は勝海舟は偉人であり、会ってみたい人物です。



三木 直人

勝海舟 = 本名：勝麟太郎（1823～1899）

条約に対する国家の確認・同意を示す文書。この文書の交換または寄託によって条約の効力が発生する



江戸時代の町奉行、遠山の金さんに会ってみたいです。桜吹雪カッコイイです。

ドラマで里見浩太郎がやっていました。母ちゃんが大好きなので一緒に毎日夕方に観ていました。

それから俳句が好きなので松尾芭蕉にも会ってみたいです。

古池やかわずとびこむ水の音

閑さ（しずけさ）や岩にしみ入る蟬の声



松本恵司

活動報告

9月は1泊旅行ときょうされん全国大会があり、翌月の区民祭りの準備も始まり、風の子が慌ただしくなるイベントシーズンの始まりである。とはいっても忙しいのは一部の人たちで、ほとんどのメンバーはいつも通りのんびり過ごしている。職員も忙しさをあまり出さずにいるので、のんびり感が増しているのかもしれない。

8月末から明治学院の実習生がきた。例年は2、3人はきていたが、今年は1人だけだった。おとなしいが真面目そうな学生だった。実習生が何故1人だけだったのだろう。明治学院の事情はわからないが、もし風の子の人气が下がっているのだとしたら、風の子はもっとアピールしなければいけないのではないだろうか。それは大学に対してという意味だけではなく、若手ボランティアを獲得しなければならぬという意味でもだ。今年で35年目を迎える風の子会が今後も継続していくためには、若手ボランティアの獲得は必須である。

小野塚 航

tigpig

追悼文

庸君がのこしてくれたもの

32年と3日、確かに短い人生でした。でも私は、人が世にのこしていくものは短く世を去る人も長く生きる人も同じだけの量があると思っています。そのすべてが目に見えたり、意識されたりするものではありません。すばらしい発明、スポーツの記録、芸術などで誰の目にも輝かしく映る業績を残す人もいれば、目立たず一見何ものこしていないように見える人もいます。でもその人もご両親や身近な人の心の中に大きなものをのこしてくれています。私たちもまだ気がついていないものもあるでしょう。それは目に見えるすばらしい業績などと同じか、それ以上のものがあると思います。

庸君は私には「頑張り」をのこしてくれました。実習所で話すとき、私はいつも庸君の目に光があるのをすばらしいと思っていました。病気で辛いことがたくさんあるはずなのに、目がいつも明るく、力があるのです。それは私には「頑張り」に見えました。しかも必死に頑張っているのではなく、淡々と頑張っている（おかしな表現かもしれませんが）、という感じでした。

庸君の頑張りの源はデザインに対する情熱だったと思います。お葬式の時に改めてこれまでの作品全体を見せていただき、独自の感性、センスによって庸君が自分のものを確立していたのだということが分かりました。そのすばらしい作品のいくつかを、いま風の子会で編集している「ボランティアハンドブック」の表紙や挿絵に使わせていただくことにしています。庸君が風の子会にのこしてくれたものの一つです。そして、いまはまだ見えてないけれど庸くんがのこしてくれたもののもっともたくさんあると思います。これからそれを探していきます。

庸君ありがとう。そして安らかに。

岡本 明

八月三十一日（土）の夕方、僕が自宅に帰り寛いでいると、風の子会から一本の電話が掛かってきました。『佐久間庸君が亡くなった』という訃報の電話でした。

庸君と僕との関係は、城南特別支援学校の先輩と後輩で、弟のように可愛がっていたので、連絡が来た頃から今でも「心にポッカリ穴が開いた」かのようにショックです。庸君との思い出はありすぎて書ききれませんが、風の子に来るときは、僕の隣で会報作業を行ったり、僕と趣味が合う話（車や格闘技など）をしたことや学校時代の思い出などをよく話していたことが昨日のように思えてなりません。個人的にも食事をしたり、メールで亡くなる二日前までやりとりしていたので、誰よりもショックなのです。



今年に入り入院と退院を繰り返していた庸君、元気な姿で会える日を楽しみにしていたのに……。三十二年間お疲れ様でした。痛みや苦しみから解放され、天国で有意義に過ごしていることでしょう。安らかにお休み下さい。そして、天国から皆を見守って下さい。

可愛い弟へ・兄貴より 合掌

田中 聡

追悼文 2

先日30歳代半ばで亡くなられた佐久間庸君、彼の人望(人徳?)なのか彼の周りにはいつも人がいて、遠くから見ていると羨ましく感じました。たしかに彼には他人を惹きつける魅力があったのは否めない事実です。そういう僕も好きでしたから。



風の子に来るといつもプロレスや野球・サッカー選手の話職員としていたことが思い出されます。30代半ばで逝ってしまった佐久間庸君、彼は充実した人生を送ったのではないのでしょうか。佐久間庸君のご冥福をお祈りいたします。

三木 直人

佐久間君、君とはサッカーを見に国立競技場に行ったことを思い出します。そして、僕が一番残念に思ったのは、君とあまり話す機会がなかったことです。もう少し話したかったのです。僕は君を一生忘れないでしょう。

太田 稔

庸君はとても明るい性格で、風の子では人気者でした。私は歳も離れているし挨拶くらいで、話をした事はほとんど無いのですが、庸君との思い出が一つだけあります。それは三年ぐらい前の夏に、ポリショイサーカスの招待があり、希望者が庸君と私の二名だけだったので一緒に見に行ったことです。席は一つだけ離れていましたけれど、空中ブランコや、ライオンや、虎の芸、そして女性の人たちがとても綺麗でしたね。私は庸君とデートをしたみたいで、とても良い思い出になりました。有り難う庸君、さようなら。

太田 圭子

佐久間君と初めて会ったときの印象はクールでインテリな青年という感じだった。時を重ねるにつれて彼の茶目っ気も理解できるようになった。職員と会話している様子を見ながら、人を惹きつけるユーモアを持っていることにも気づいた。体が少しずつ弱っていく、風の子で顔を合わせる機会が減っていった。たまに会っても、挨拶を交わすくらいしかできなかった。もっといろんなことをしゃべっておけばよかったと思う。もっとばかなことを一緒にやっておけばよかったと思う。今となっては後悔でしかないが、せめて自分の人生をしっかりと生き抜いて、あっちの世界でゆっくりと語り合いたい。

佐久間君お疲れ様。しばらくゆっくりしてください。

小野塚 航

この度は庸くんがお亡くなりになられお悔やみ申し上げます。しかし僕の中では庸くんの魂は生きています。どうか落ち込まずに、これからも頑張ってください。

塚田愛基

佐久間君とプロレス話で盛り上がりました。英語の発音や映画をパソコンで調べたりしました。佐久間君は田中君と友達で仲良しでした。楽しかったです。

松本恵司

追悼文 3

佐久間庸くんが今年の8月31日に亡くなった。彼とは5年前に出会った。パソコンについて色々語り合おうと思っていたが、私の耳が遠く、彼の声が小さかったためなかなか話が出来なくて残念だった。若いうちに亡くなったのはとても可哀相に思う。ご冥福をお祈りします。

幸 高史

佐久間くんとは僕が中三で入学した、養護学校時代からずっと一緒でした。一歳差なので三年間一緒に過ごした上、勉強等も一緒に受けていました（養護学校は学年ではなく、障害区分でグループ分けされてる為）。趣味や好きな事の被ってる物が多かったため、学年別行事等の場合は勿論無理でしたが其れ以外の時間は殆ど其れ等の話をしていました。其れは風の子に入所してから変わらず、佐久間くんと分かれてた時も勿論のことでしたが、高浜実習所で一緒になってからは休憩時間に沢山話をしたりしていました。数年前から風の子になかなか来れなくなってからも、佐久間くんが来れた日は殆ど話をしていました。

歳が近いっていうのも勿論ありましたが、学校と一緒に通ってた・同じ企画のメンバーだったというのもあり其れだけに亡くなられたのは残念です。未だにあまり実感が湧きません。楽しい時を過ごせた事に感謝しています。今迄有難う御座いました。

田村 亮彦

お疲れ様でした。

北原 明美

面白かったね。

野田 広一

サッカーの話楽しかったです。
長い間お疲れ様でした。

朝生 孝之

庸君とは2002年の外に出よう大江戸線で一緒の班でした。色んな所に行って月島で一緒にもんじゃ焼きを食べました。楽しかったです。

庸君といっぱいお話できて楽しかったです。

齋藤 臣一

庸君はとても優しい良い子でした。元気なころは一緒に食べに行ったり飲みに行ったりしたことを思い出します。また、庸君の作品を見て、素晴らしい絵の才能の持ち主だったことに改めてびっくりしました。そんな庸君が亡くなってしまったのはとても残念ですが、天国で安心して幸せに過ごすことを祈っています。

真部 千代子

庸君のことは普通の車いすに乗っていた頃から知っているの、そんな元気な時があったことを思い出します。安らかに眠ってください。

青木 和代

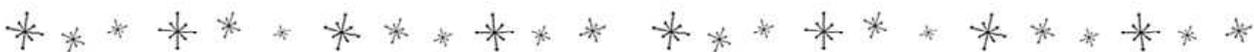
佐久間くんかわいそう。
よく頑張ってきました。お母さんかわいそう。
福島 基予子

追悼文 4

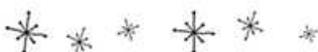
14年前から風の子会に来ていた庸君。病院に出たり入ったりしながらも、10年くらい続けて年賀状を作ってもらっていたので、これからどうしようという気持ちです。可愛い孫がこんなに早く逝ってしまうとは思っていませんでした。

お父さんお母さんには、自分の経験から、できる範囲で色々と応援していきたいと思っています。長い間本当にありがとうございました。

松本 成子



お疲れ様でした
小野田 浩



お疲れ様でした。
掛橋 竜也



色々ありがとう。庸君愛してる。また会えるといいね。

飯尾 直美



学習会報告

9月4日の学習会では、今後の学習会の予定決めを行いました。また、明学生が「バリアフリーマップ」を持ってきてくれました。

9月11日は、前半は、メンバーの三木さんが担当して、「オリンピックについての講義」をしてくれました。クイズ形式でやってくれて、楽しめました。

後半は、明学生が手話を教えてくれました。難しかったけれども大変勉強になりました。

9月18日は、東京ビッグサイトで行われていた国際福祉機器展に行き、車いす、電動バイク等を見てきました。とてもたくさんあり、もっと見たかったというメンバーもいました。

9月25日は、前半は、きょうされん大会の報告がありました。今年は会場が福島県だった

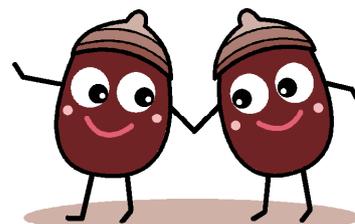


ので、被災地を見学したそうです。まだまだ復興が進んでいない様子だったようです。

早い復興を願います。

後半は、習字をしました。テーマは「秋」でした。「紅葉」、「芸術」、「柿」など、思い思いの「秋」を書いていました。

ストーン・ゴッド





きょうされん大会報告

9月21～22日福島県で行われたきょうされん大会に行ってきました。今年分科会が少なかった為、私たちは1日目のオープニングには出席せず、甚大な被害に遭った南相馬市を視察することになりました。道中の車内から観た光景には想像を遙かに超えるものがありました。市内には全く（放射能汚染を恐れてか）人の姿を見かけず、家屋は、半壊又は全壊はたまた土台だけを残して津波に流されていました。車もガードレールもつぶされたり曲がったりと自然の驚異を改めて痛感しました。2日目はいわきコースのバスツアーに参加途中美空ひばりの「みだれ髪」で有名な塩屋崎灯台と震災からわずか4ヶ月で復興した「アクアマリン福島」を見学してきました。塩屋崎灯台は高台に建っていたので幸いにも無事でしたが、そのそばの学校には、ガレキが積まれてシートで覆われていました。何よりも悲しいのは、小さな子供たちが外で遊ばず運動会も出来ないし、今でも仮説住宅で暮しを余儀なくされている方々です。ガイドしてくださった方によると、安全に住めるようになるには後10～20年かかるそうです。『がんばれ日本・がんばれ東北』！！

三木 直人



今回は天気にも恵まれ、2日目のバスツアーでいわきをめぐり、被災地を通り、災害の爪痕を見てまだまだ復興がなされていない光景にショックを受けました。その後に行った水族館ではあまりの人数にゆっくりは見れなかつたけど、楽しめました。

青木 和代

9/21・22日に福島のきょうされん大会に行ってきました。

今回の事で特に印象深かったのは、やはり復興の現状です。山を登れば「除染中」とかかれた旗が各所にはためき、海岸が近くになるにつれ、人気のないゴーストタウンが続き、次第に舗装道路のヒビや凹凸が目立ってきます。横に目をやれば、震災前は多くの住宅などがあつたであろう跡が、広がる草原に見え隠れしており、ぐちゃぐちゃになった、元は車や船が住宅街に鎮座し、曲がりくねったガードレールや今にも崩れそうな家が高台に軒を連ねていました。

月並みですが、TVのニュースで見ると実際見るとでは、やはり現実味が違いました。

2日目にはツアーに参加し、バスガイドさんや商店の方に当時の様子を聞くことができましたが、被災者の中には警報が出ていても、現場に行ってしまった方も少なくないようで、とても驚いた反面、自分たちはどうだろうか？と自問自答したところ、きっと同じようなことになっていたのかなとも思いました。日頃の危機感の無さを改めなければと再認識しました。

最後に、福島の現状はまだまだ悲惨な状況と言っても過言ではないかも知れません。しかし、現地の福島の人たちは、驚くほどに明るく、ひたむきに生きていました。逆に私達が元気をもらったような、そんな二日間でした。

丸山 泰慶



初日はオープニングセレモニーを素通りして、風の子単独で南相馬を訪れてみることにした。途中、帰宅困難禁止区域に突き当たり、大きく迂回することになった。バリケードが貼られ、警備員が立っていた。道中には汚染物質処理作業をしていると思われるような場所がいくつもあった。テレビでは何度も見た光景だったが、実際に目の当たりにすると言葉が何も出なかった。

迂回路を経て南相馬に着き、海岸あたりにさしかかると更に驚く光景が目の前にあった。地震から2年半も経っているのに復興の兆しが何も見えないのだ。津波によって壊されたであろう家々が所々にまだ残っていて、破壊されてぐしゃぐしゃになった車があちこちに放置されていて、海から流されただろうボートが草むらにそのまま置かれていた。

以前は住宅が建ち並んでいたと思われる場所は、敷地跡だけが残り、あたり一面に雑草が生い茂り、歪んだガードレールはそのままの状態で見立っていた。道路だけがしっかりと再舗装されていて、信号機が哀しげに点滅していた。

阪神淡路大震災の時は、2年半も経った頃にはずいぶん復興していたように記憶している。けれども何故3・11はこんなにも進みが遅いのだろう。それはたぶん、津波の規模が想像以上に大きかったことと、原発事故が大きく起因しているのだろう。原発がなかったら、もう少し町並みは再建されていたかもしれない。

僕らは3・11のことをもうすでに過去のことのようになっている。けれど、被災地はまだまだ3・11のままなのだ。その現実を思い知らされたような気がした。

2日目はきょうされんの視察観光に参加した。全国各地から参加した他団体のの人たちと共にバスに乗り込み、いわき周辺を観光回った。塩谷岬へ行き、前日訪れた南相馬と同じ様相にまた言葉を失った。次に訪れた水族館は津波の大打撃を受けたにもかかわらず、わずか4ヶ月間で復旧して再開したという。福島の人たちの復興にかける魂を感じた気がした。

今回のきょうされん全国大会は例年と趣向が違っていた。僕らが参加していたような分科会はなく、被災地を直に観ることに重きが置かれていたように感じられた。そこにはすさまじいリアルがあった。TVでは絶対に感じることはできないものだ。僕たちは、そこから感じ、学ばなければならない。

そう思った。

きょうされん大会報告

小野塚 航

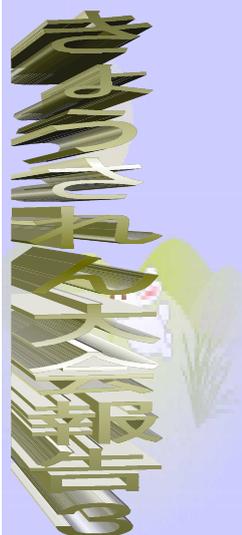
今回のきょうされん大会は福島まで行ってきました。今回は分科会には出席せずに、一日目は被災地を見て回りました。今回はキャブで行動したのですが、未だに交通規制がしかけていたり、震災の影響で修復されていない家屋など、まだまだ復興にはほど遠い感じがしました。

2日目はアクアマリンフィールドの見学をしたのですが、動ける障害者が多かったためか、車椅子障害者にとっては厳しい時間配分となっていました。もう少し車椅子障害者のことを考えていただけるとありがたいと思いました。

今回は被災地を見て回りましたが、やはり映像だけしか見ていないのと実際に現地に行ってみるとは、全然違うことだと思いました。実際に行ってみることでこの震災を深く考えられるのだと思います。仕事でも実際にやってみるといことが、大事なのだと思いました。

最後になりますが、この経験を今後の仕事に役立てていきたいです。

岡本 裕介



9月21日、22日「第36回きょうされん全国大会 in 東北 ふくしま」に小野塚さん、三木さん、青木さん、岡本所長、丸山さんと共に参加しました。全国から2500名の方が参加と聞き、「きょうされん」初参加の私はドキドキでした。正直、福島は原発の問題で、漠然とした不安もありましたが、郡山市磐梯熱海の会場に着き東北各県共催、復興に向け頑張っておられる想いが会場全体から感じられ、来てよかったと思いました。その後南相馬など被災地を巡りましたが、2年半過ぎても住宅跡に雑草だらけの沿岸部、歪んだ道路を目の当たりにする光景に、改めて津波、原発の恐怖を感じました。福島で現状を見、知り、感じてきましたが、もっと多くの方が今を見て、知って、感じるべきだと痛感しました。 石田 美穂



バスでの移動は疲れましたが、夜の宴会は皆でわいわいがやがやできてとても楽しかったです。カラオケも楽しめました。ご飯も美味しかったです。来年も楽しみにしています。

掛橋竜也



今回の草津旅行で、特に印象に残っていることは、みなさんがカラオケで楽しそうに歌っている姿や、みなさんにカラオケを一緒に盛り上げてもらったこと、そして花火をやったことなどです。宴会では、一緒に話をしようと思ひなさんが優しく声をかけてくださり、多くの方たちとお話してきたことがうれしかったです。

車イスを使った方々との旅行は初めてで、今まで気にしてこなかった、通路の狭さや、スロープの有無による移動のしやすさ、しづらさなど、いろいろなことを感じ、学ぶことができました。



風の子会のみなさんとの旅行に同行でき、大変貴重な経験ができました。ありがとうございました。

中込 綾佳

旅行感想

9月7日と8日に私達は草津に行きました。私は背中が痛かったのでよしこと言う送迎用の車で行きみんなは大型バスで行きました。そしてまず初めにお昼にうどんが出されました。美味しくて全部食べました。そして宿につき風呂に入り下が石だったのでその石で足をすりむきました。夜の宴会の席で美味しくてつい食べ過ぎてちょっと気持ち悪くなってしまいました。その後花火をしました。楽しかったです。

8日は車椅子は壊れたけど、火山ミュージアムに行きました。火山の溶接口が動きとともにゴーゴーと音立ててました。動きながらだったので何か気持ち悪かったです。でも楽しい思いを皆さんと共有する事が出来ました。

車椅子が壊れてから2週間程休みを頂き今に至ります。でも旅行は楽しかったです。



塚田 愛基



2014年新春カレンダーの販売

暑かった夏も終わり、肌寒い季節になりました。今年もまた、来年のカレンダーの販売の時期になりました。来年2014年の新春カレンダーもバラエティーに富んでいますので、どしどしご応募下さい。

さて、今まで会報に同封していたカタログですが、定料第三種郵便にてカタログを同封して送ることができなくなってしまったため、カタログをご覧になりたい方は、お手数ですが風の子会にご連絡下さい。後日郵送させていただきます。他にも、風の子のホームページでカタログを閲覧できますので、合わせてよろしくお願い致します。

注文方法

- 風の子会高浜生活実習所へ電話又はFAXで注文。
- 風の子会高浜生活実習所へ注文用紙を持ってくる。

*・・・別紙の注文用紙に個数を入れて頂き、合計金額その他必要事項をご記入の上、FAXにてご注文下さい。

*・・・商品のお届けは、ご注文締め切り後、約2週間前後とさせていただきます。

*・・・港区内は、無料配達致します。配達の際は、代金引換となります。

*・・・郵送の際はお手数ですが、同封する振り込み用紙にてお近くの郵便局でお振り込み下さい（手数料は無料です）。お買い上げ金額が5000円以下の際は、送料をご負担願います。

～ 締め切り日 ～

締め切り 12月2日（月）

私達風の子会は、共同作業所全国連絡会（きょうされん）に加盟している港区の障害を持つ人達の作業所です。この販売活動は、共作連や作業所の活動資金や障害のある人達の収入を得る為の活動です。是非、ご協力の程、宜しくお願い致します。

九月二十八日（土）PM一時～四時三十分まで、クラブ活動を行いました。僕たち運動クラブは、声楽クラブの塚田さんと一緒に芝浦中央公園に行き、風の子の専用のゴムボールを使い、サッカーとバスケットボールをしました。人数も少なかったのですが、本格的なことは出来ませんでした。遊びのような感じで楽しく行われました。その他のクラブの状況は、寿司クラブは手作りパスタを作り、パソコンクラブでは、ゲームやインターネットをしていたそうです。反省会では、運動クラブから『バスケットボールのボールやサッカーボールを購入してほしい』などの意見が出ました。次回のクラブ活動は、十月二十六日（土）PM一時～四時三十分までです。

田中 聡

クラブ活動
報告

スケジュール

10月27日(日) ヒューマンプラザ祭り
11月30日(土) 風の子会35周年記念式典

寄付のお礼

賛助会にご賛同くださった方

渡部 一元様、細山 公子様、飯尾 直美様、山本 喜美枝様、中嶋 仁様、
堀 信子様、小西 雅子様、吉本 道子様、高野 カネ様、
高野 定雄様、松本 成子様、松本 恵司様、内田 茂様、
菅野 利昭様、滝口 雅祥様

ご協力ありがとうございました



その紙にはいっぱい名前が書かれていた。
結婚式なんて、無論初めてのことである。誰
がどこに座るかなんてことは、僕はお恥ずかし
いことにまるで知らなかったのである。

太田 稔

僕の
生い立ち
第二十四話

「これが英語ではブレッドと言いまして、日本
人のご飯と同じで、ブレッドには牛の乳から作っ
たバターと言う物を塗って食べます」

吉田は、

「木村さんお腹がすいているのではありません
か。ちょっと待っててくださいね」

と言うと、何やら向こうから小さな瓶を持ってきた。
栗 あきら

あ
ん
ぱ
ん
物
語
第十二回

風の子便り連載

岡本 明

バリアフリーよもやま話 第24回 「見えない人のスマホ」

スマートフォン、略してスマホは、パソコンのような機能がついた携帯電話（もはや単なる携帯電話から大きく変わってきていますが）です。いま大流行で、電車の中では座席に座った人の10人に8人がスマホをいじっている状況です。歩きながらスマホを操作する「歩きスマホ」が危険で問題になっていますね。ちょっと異常とも思われますが、それほどにまで普及しているものは、障害のある人にも当然使えるようにする必要があります。



スマホを使うときの基本になっているのはキーボードではなく、指で画面（タッチパネル）を触って操作する方法です。これは簡単で、直感的に操作できるので大人気です。ところがこれは目が見えない方にとってはとても操作しづらいものです。キーボードであれば位置が分かり、押せば押した感覚が手に返ってきますが、タッチパネルは触っても平らなつるつるの面があるだけで、なにがどこにあるかの手がかりがつかめないうし、ちゃんと押せたかどうか分からないのです。

目が見えない方にもこれを知るようにするために、いま盛んに開発されているのは主に聴覚（音）を使う方法で、画面の指で触った部分にあるいろいろな操作スイッチ（アイコン）や文字を読み上げる技術です。これによって画面のどこに何があるかが分かり、スマホを操作することができます（ちょっと触っただけでは動作しないで、音声で読み上げるだけになるように設定されています）。そのほかのいろいろな情報もすべて音声で読み上げてくれます。これは「スクリーンリーダー（画面読み上げ機能）」と呼ばれ、たとえば「アイフォン（iPhone）」というスマホには、タッチパネルに対応した「ボイスオーバー（VoiceOver）」というスクリーンリーダーがはじめから入っています。アイフォン以外のスマホでは「ドキュメントトーカー（Document talker）」というスクリーンリーダーを入れると音声が使えます。

最近の新しいスマホでは、視覚障害のある人に便利ないろいろな機能（アプリケーション）を使うことができます。たとえば、組み込まれているカメラで時計を撮ると時刻を音声で知らせてくれますし、温度計なら温度を教えてくれます。紙幣を写すと何円札なのかを教えてくれたり、カメラを向けているものの色を伝えてくれる機能もあります。さらに、カメラの画面に何人の人が入っているかを教えてくれる機能を使えば、撮る前に状況を知ることができます。こうすれば目の見えない人でも写真をちゃんと撮れますね。以前この連載でも書いたことありますが、目が不自由な方で写真が趣味、という人は意外に多いのです。GPS機能（人工衛星からの電波を受けて、自分のいる場所を知ることができる機能）を使って、行きたいところへガイドしてくれるものもあります。また、画面上で指を一定のルールで縦横に滑らせると点字の入力ができるものもあります。

目が見えない人のためには凹凸を付けたたり振動させたりして触って分かるようにしなければならぬという、これまでの考え方を覆す技術ですね。



4		6	4
3	7		5
		1	
6		4	

検ロジ

タテ・ヨコの列に1～N（Nはタテ・ヨコのマスの数）まで数字を一度ずつ使い、ルールに従い盤面に数字をうめていくパズルです。右上に表示されている計算方法で、各ブロック左上に書かれている数字の解答になるように、ブロック内に数字をうめていきます。



わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

～ Introspect Myself 編まとめ ～

1年以上にわたって書き続けた今回のこのお話にようやく区切りがつかしました。この Introspect Myself 編を書こうと思った訳は、その前話である第45話『Disabled In The Dormitory』での最後の一文「寮の中でのヅカシって、どんな奴だったんだろう・・・？」という自身への問いを受けて、その問いに対するアンサーとして書いてみようというのがきっかけだったのです。デートもどき、告白、親友からの衝撃的な知らせ、そして・・・というチープな恋愛劇を展開させつつ、実はこの中で描きたかったのはこのタイトルが示すとおり Introspect Myself つまり自分を内省するという事で、僕自身って何者なのだろうということについて書いてみたかったのです。つまり Introspect Myself 編の Part - 10 “Inner Space or Metaphysic Thinking” が本編の中での中心的命題なのです。

Introspect Myself 編 Part - 10 は、それまでのドラマティックな展開を一時中断して、自分自身を振り返る、自分自身の思考の中に入っていき、という仕掛けで話が展開していきます。だから文章が概念的だったり抽象的だったり、観念的だったりして読み手には少しわかりづらくなっているかもしれません。けれども人の思考なんて多かれ少なかれそんなものかもしれません。そういった訳のわからない思考をさらけ出すことで、僕という人間を少しでも理解してもらえたら、という願いもこの Introspect Myself 編には込められています。

加えて、今回のこのお話では「果たして僕には小説を書く能力があるのだろうか」という疑念に対する答え、あるいは挑戦というねらいもありました。起承転結、演出能力、顛末のまとめ方など、小説としての形をきちんと成しているのか、読み応えはあったのだろうか、など書き手としては不安でいっぱいです。

そもそも僕が何かものを書いてみようと思ったきっかけは高校の創作コンクールでした。1年の学期末に配られたその冊子を読んでまず思ったのは、あまりに内容が陳腐で驚いたということです。「この程度の作品なら、僕にも書けるのではないか？」という浅はかな考えで書き始めました。初めて書いたのはSFでした。当時の僕はロボットアニメに深く傾倒していたので、そういうファンタジックな世界を僕なりに描いてみたいと思ったのです。結局その作品は僕の頭の中で世界がものすごく広がりすぎてしまい、未完成に終わってしまいましたが（それでも9万字以上は書きましたが）、物語を書くという楽しさを経験することができました。

それから10数年が経ち、風の子会の会報で連載を書く機会を得ました。何を書こうか考えた末に辿り着いたのが、自分の大学時代を振り返ってみようということでした。全くのオリジナルを一から手がけるよりも、自分の歴史を描く方が書きやすいだろうと思ったのです。大学時代は本当に様々な経験をしました。それらの経験を文章にして皆さんに読んでもらって、僕という人間を少しでもいいからわかってもらいたい、という願いもありました。初めのうちは寮での生活を客観的に書き記すだけでしたが、3年、4年と書き進むにつれて、寮で関わった人たちとのエピソードをドラマティックに描いてみたいという欲が出てきました。『途中入寮生編』や『一泊旅行編』ではそういう傾向が色濃く出ています。そしてドラマティック性をより重視して書き始めたのが Introspect Myself 編なのです。

自分の内面をさらけ出す、小説が書けるのかということに挑戦する、Introspect Myself 編にはこの2つの意味が込められています。読んでくれた人たちに、それが伝わってくれるといいのだけれど・・・

夕会便り

9月は旅行やきょうされん全国大会などがあり、夕会は1度しか開かれなかった。その1度の夕会で話し合われたことは、月初めに行った旅行の感想を集約することだった。メンバーが怪我をしてしまったこと、宿の温泉が3つにわかれていたためにボランティアが戦力的に分散されてしまったこと、風の子の旅行として距離が適当かどうか、等々の意見が挙がった。僕は行事委員でもあるので、これらの意見を真摯に受け止めて次の旅行に活かしていきたい。



小野塚 航

きょうされん大会の日の風の子会

9月21日、きょうされん大会に参加しないメンバーと職員、ボランティアさんと横浜に行きました。最初にクイーンズスクエアで昼食をとりました。僕はラーメンを食べました。とてもおいしかったです。

食後は歩いて赤レンガ倉庫まで移動し、そこから水上バスに乗ってみなとみらいまで行きました。水上バスのスタッフさんが総出で車いすの上げ下ろしをやってくれて、とてもありがたかったです。ただ、電動車いすを使用しているメンバーが乗り込むことができなかったの、今後電動車いすも乗れるようになったらいいなあと思いました。

暑かったですがとても良いお天気だったので良かったです。

田中 聡

クイズの
 答えです
 ありがとうございます

4		6	4
3	1	2	4
3	7	4	5
1	3	4	2
		1	
2	4	1	3
6		4	
4	2	3	1

編集後記

当会は昭和54年11月に「サークルアラクス」として三田の障害者会館で発足し、昭和55年4月に障害者とボランティアが区別無く、明るく楽しくそのような雰囲気になつては入会しました。思い返してみると、この35年間色々なことがあつた。メンバーの増減は勿論、途中で職員制になつて障害者との間に壁が出来るのではないかと不安になつたり。しかし、みんな今まで通り平等に活動しているので安心した。それが当会の魅力で有ると感じる。特に私が印象に残っているのは昭和56年に国際障害者年「完全参加と平等」をメインテーマに世界各国で行われ、閉じこもりの障害者を外に出そうという運動をしたり、駅や建物などにエレベーターを設置して貰う様に交渉や運動をしたり・・・その結果、障害者福祉が進歩し私達にとつていい世の中になつたと思う。今では風企画（パソコン班）と風工房（手作り班）に分かれて本格的な仕事をしています。そう言った様々な取り組みを行つて来た当会は皆様のご協力とご支援などのお陰で今日までやってこれたと思ひ感謝申し上げます！

幸 高史

2020年に、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定しましたね『お・も・て・な・し』は本当に実現できるのでしょうか？？まだ、東日本大震災での復興が遅れている中開催していいのでしょうか。頭を抱えてしまいます。七年後ですので、どのようになっているのか解りませんが、そのような予算があれば、復興予算に使うとかして、国民の皆さんが納得できれば行つても良いと思います。来年の四月より消費税が8%に上がりますし、七年後は何%まで上がっていくのでしょうか。消費税が上がるのならば、高齢者や障害者の福祉をよくして住みやすい国にしてほしいなあ。

サトちゃん (^o^)

少し前の号から、エニグマの題の種類を変えてみました。皆さんの反応を知らないのは残念ですが、これは残念でも色んな問題を出題していかうと思ひます。

田村 亮彦

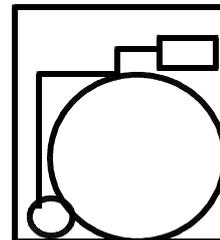
ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集人：【高浜生活実習所】
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21



編集者
石神 一
太田 隼郎
小野 塚
田中 塚
佐久間 亮彦
松本 恵亮
右田 司
幸田 史
和栗 太郎

吉柳 三塚 田小太
田川 木田 中野 田
久敬 直愛 圭
代事 人基 聡 航 子